

# 都技 生涯 研修 基本講習会 I

[開催コード]  
申請中 (基本認定単位)

## [重要なお知らせ]

1. コロナウイルス感染拡大防止目的により、参加申し込み者のみが視聴できるYouTubeの限定公開システムを用いたオンラインによるセミナー開催となります (\*オンライン環境がない方は会場参加可)。
2. **本研修会は東京都保健局よりの委託事業となっております。**  
**つきましては受講対象者は以下の方に限ります。**
  - ① 一般社団法人東京都歯科技工士会 (都技) 会員
  - ② 学生
  - ③ 東京都内在住在勤歯科技工士

## [申込期間]

- 東京都歯科技工士会会員・学生 (上記①、②番) : 6月17日(金) AM10時～
  - 東京都内在住在勤歯科技工士 (上記③番) : 6月20日(月) AM10時～
- \*受付開始日前のお申し込みは無効といたします。 \*定員になり次第締切といたします。

## [申込方法]

- ① 参加希望者は右記QRコード、もしくは東京都歯科技工士会のホームページからお申し込みください。  
ホームページURL: <https://www.to-ginet.com>
- ② 上記オンライン申込をされますと登録したメールアドレスに自動返信されますのでご確認ください。



申込用QR

## [LINE公式アカウント登録のお願い]

緊急連絡、変更&追加報告をスムーズにさせるために都技では試験的にLINE公式アカウントを設けましたのでLINEを使用されている方は、是非とも登録をお願いいたします。



都技LINE公式  
アカウントQR

## [お問い合わせ]

一般社団法人 **東京都歯科技工士会**  
〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-2-10 ヴィップ大塚香川ビル4F  
e-mail: [togi-info@to-ginet.com](mailto:togi-info@to-ginet.com)

## 令和4年度 基本講習会 I

### オンラインセミナー

～人生100年時代

「**最期の一口まで!**」寄り添うために～  
“**食べる! 噛める!**” 希望をつなぐ  
「**口腔ケア・口腔リハビリ×義歯づくり**」

第1部 『訪問診療で食べる所まで診る』  
～もう一度、噛める喜びを～

第2部 『最期の一口まで!』 希望を繋ぐ多職種リレー  
～“口腔ケア×口腔リハビリ”の実践と重要性～



Tokyo master course Science Lecture

### 講師

【第一部】 **加藤 武彦** 先生  
加藤歯科医院 院長

【第二部】 **黒岩 恭子** 先生  
村田歯科医院 院長

[開催日時]  
令和4年 **7月24日** 日

入室 **12:40** 開始 **13:00** → 終了 **17:00**

### オンラインセミナー

定員 **80名** 参加費 **無料**

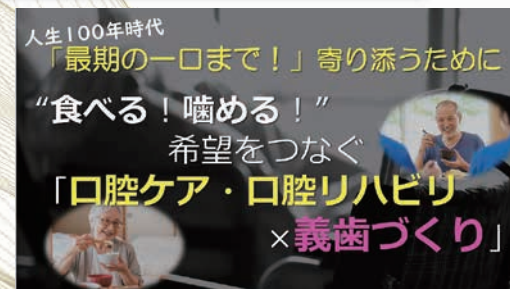
### 会場受講

定員 **10名** 参加費 **無料**

場所 **東京都歯科技工士会 研修室**  
東京都豊島区北大塚2-2-10 ヴィップ大塚香川ビル4F

[担当] 中央ブロック

一般社団法人 **東京都歯科技工士会**



都技  
生涯  
研修

～人生100年時代「最期の一口まで！」寄り添うために～

# “食べる！ 噛める！” 希望をつなぐ「口腔ケア・口腔リハビリ×義歯づくり」

## 第1部

### 『訪問診療で食べる所まで診る』

～もう一度、噛める喜びを～

急速な高齢化により現在の日本は4人に1人が65歳以上の超高齢社会にあり、歯科的な恩恵を受けていない在宅や施設での、噛めない義歯で困っている患者さんが多く、益々増える傾向にあります。私が取り組んできた「食べる所まで診る歯科医療」と多職種連携が、今後いかに必要になってくるかという話をさせていただきます。

第2部でご講演される黒岩先生は、口腔機能に障害のある患者さんに、口腔ケア・口腔リハビリを行うスペシャリストで、機能を整えた上で義歯製作をすることで目的を達成します。

私は誰もやっていない約40年前から訪問診療を開始しており、ある時認知症の患者さんの義歯治療において、印象・バイトと順調に進みセットした所「こんなもの入れられるか」と猛烈な剣幕で義歯を捨てられた経験から、自信を持って造ったのに何故？ どうして？と、技術的な事より認知症を真剣に勉強した所、認知症は五感がしっかり残っているがダメな事に対しては感情が強く出る事が解り、私の義歯が歯槽頂間線法則に則り、上顎を交叉咬合に排列した為に舌房が狭く感じ、期待した義歯と違ったので「こんなもの入れられるか」と言われたと理解し、その事がターニングポイントとなり「加藤式デンチャースペース義歯」の開発が始まり、ご家族の願い「もう一度、噛める喜びを」味わって頂きたいとの思いでした。当時の日本の大学教授が書かれた本は歯槽頂間線法則を基準としたものが多かったので、外国の先生はどうかと真剣に探した所、Dr.パウンドとDr.ワット

のテクニックが人工歯は天然歯の元あった位置に排列しますが、それは吸収した骨の量をレジン床で再現することで、天然歯の元あった場所に人工歯を排列しても義歯は転覆しないという理論でした。しかしどちらのテクニックも複雑で、往診先で出来るレベルのテクニックをあみ出す為に、メーカーと協力してトクソーリベースという口腔内で直接リベースが出来る刺激性の少ないリベース剤を開発しました。そして、床の外形を決める為には、外側の頬筋、内側の舌のバランスの良い位置を基礎床上で探す為に、嚥下位でデンチャースペースが表せるフローの良いシリコンを探し、この2つの材料を用いて～ニュートラルゾーン理論による～「デンチャースペース義歯」を完成させました。そのためには

- ①大学で教えられた歯槽頂間線法則から脱却する事
- ②発想の転換をする為に新しい器材の開発する事なくしては出来なかった
- ③訪問先で義歯を即日改造する為に歯科医の経験と技工のスキルが必要
- ④噛めなくて困っている患者さんに義歯を即日改造して、まずは食べる所まで診る、そして顎位のリハビリの為に後日咬合調整を行う。

これらのことを早期から訪問診療で取り組み、研究と改良を重ねて参りました。

今後、訪問診療での義歯づくりには歯科技工士の重要性が増してくると思われます。少しでも今後の皆様のご参考になれば幸いです。

## 第2部

### 『最期の一口まで！』 希望を繋ぐ多職種リレー

～“口腔ケア×口腔リハビリ”の実践と重要性～

人生100年時代と最近言われておりますが、日本は世界に例を見ない急速なスピードで超高齢社会に突入し、平均寿命は毎年過去最高を更新し続けており、健康寿命との差の平均は約10年と言われております。施設、病院、在宅医療で要介護や寝たきりの期間の平均も10年ということになります。その間、通院できないだけでなく歯科との関わりは極端に少なくなり、口腔の問題は後回しになることが多く、歯科が頼られることが少ない現状が続いておりますので。待つのではなく、現場に飛び込んで行くことを、決心をしました。

在宅往診を始めて約30年以上経ちますが、在宅だけでなく、全国の施設や病院を数え切れないほど、駆け回りました。初めは、歯科から来たと言ってもほとんど相手にされませんでしたので、まずは現場の医師、看護師、介護職、リハ職の方々とは学ばせていただくことから始めました。と同時に、ご家族や患者さん本人から学ばせていただいたことも貴重な経験でした。

そこには「食べにくい」「食べられない」だけでない悲惨な状況ばかりで、義歯が合っていないというお悩みも多いのですが、それ以前に、現場に往診に行くこと、まず口腔内のひどい状況を目の当たりにすることが多く、食物残渣が腐敗して悪臭を放っていたり、粘膜や舌がカラカラ、ガビガビに乾燥して食事を満足に摂ることもできない方がたくさんいたのです。更には誤嚥性肺炎を繰り返すなど付随する症状や問題が山積みでした。

歯科医師とはいえ、口腔ケアは未知の領域、数多くの患者さんを診て、多職種のスタッフと一緒に学び、研究

を重ねた結果、汚れを落とすだけでは不十分で、マッサージやストレッチで唾液分泌を促し、舌や粘膜にストレッチを入れての“口腔リハビリ”を併用することがとても重要だと気がつきました。口腔ケア用品も見直し、咽頭ケアまでできる『くるリーナブラシ』も開発し、全国の病院や施設を回り、機能重視の口腔ケアの普及を始めました。訪問先では、必ず現場の多職種のスタッフと一緒にラウンドして、その場で成果を見せています。覚醒し、呼吸が楽になり、声が出せるようになり、食事ができるまで回復する患者さんを目の当たりにして、初めて口腔ケアを見直す必要性を理解してもらえるからです。更には全身状態の観察や管理・呼吸・姿勢・嚥下・食事の形態・食具の工夫や介助の方法など、多くの問題を解決するには地域が多職種の方々やご家族との連携無くしては解決できません。

近年ようやく地域における多職種の連携が重要視され、地域包括ケアシステム構築のためにも、従来のサービスに加え、筋力向上・栄養改善・口腔機能向上など、私たち歯科医療従事者は今後、どのような形で地域住民の期待に応えることができるかが大きな課題です。

私たち歯科医院のスタッフは「今すぐ・この時に」「最期の一口まで！ 諦めない」を合言葉に、困っている患者さんの元に敏速に駆けつけ、多職種の専門職にネットワークを築きながら、介護予防・重度化予防を“地域が1つのチーム”となるよう地域密着型で実践しております。今後の皆様の少しでも参考になればと思いお話をさせていただきます。

#### ■講師略歴

### 加藤 武彦

【かとう たけひこ】



加藤歯科医院 院長

#### 略歴

1961年 東京歯科大学卒業

1964年 横浜市港北区にて開業

- 全国訪問歯科研究会「加藤塾」主宰
- 地域医療勉強会主宰
- NPO法人日本アビリティーズ協会 理事

#### 主な著書

- 『治療用義歯を応用した総義歯の臨床』医歯薬出版
- 『口から食べることへの支援』共著、環境新聞社
- 『食べる機能を回復する口腔ケア』編著、医歯薬出版
- 『食べられる口づくり 口腔ケア&義歯』共著、医歯薬出版

#### ■講師略歴

### 黒岩 恭子

【くろいわ きょうこ】



村田歯科医院 院長

#### 略歴

1964年 日本女子衛生短大卒業

1970年 神奈川歯科大学卒業

1975年 茅ヶ崎にて村田歯科医院開業、現在に至る

- 全国訪問歯科研究会「加藤塾」・横浜歯科臨床座談会会員

#### 主な著書

- 『口から食べたい』、『デンタルハイジーン別冊』編著、医歯薬出版
- 『口から食べることへの支援』共著、環境新聞社
- 『歯科衛生士のための口腔リハレッスン』、『デンタルハイジーン』2001～2002年連載、医歯薬出版
- 『障害をもつ人に寄り添う』、『歯界展望』2002年連載、医歯薬出版